

かみくげ 恐竜の里新聞

平成 23 年 3 月 25 日

発行：上久下恐竜の里づくり協議会

第 32 号

上久下
地域づくり
センター
0795 78 0001「元氣村かみくげ」
設立準備総会開かれる

法人化を進めている「元氣村かみくげ」の企業組合設立準備総会（説明会）が3月5日（土）地域づくりセンターに40名の出資申込者が出席して開催されました。

当日までの出資希望者総数は74名となり、組合設立を当初から指導をした兵庫県中小企業団体中央会から2人のコンサルタントも同席しました。準備総会では組合設立準備委員会のメンバーから趣意説明や定款・事業計画概要や、役員選出に関する提案などがされ、元氣村かみくげの設立目的である「地域の活性化と収益性を目指す」の地域貢献（還元）が確認されました。本総会は5月1日（日）午後1時半から地域づくりセンターで開かれ、正式に活動が開始されます。



元氣村に新施設が完成



丹波竜の里「元氣村かみくげ」では新施設として化石発掘体験専用棟（60平方メートル）と多目的展示施設棟（66平方メートル）が完成しました。丹波市から補助金750万円を受け、地元業者が請け負って建設したもので一部を除いて施設利用が可能となりました。

3月19日（土）に県民局長、市長らを招いて落成式典を開くことになっていましたが、東北関東大震災や福島原発事故など諸般の事情によって急ぎよ中止とし、平常どおりのオープンとしました。

全天候型の化石発掘体験棟では、当日、落成式イベントの中止を知らない来訪者に1日完全無料体験を実施し、震災義援金を設置して募金を募り、真新しい施設内は終日多くの家族ついで賑わいました。テレビ大阪やサンテレビが取材する中、骨片やマイクロ化石（カエルなど）が30個ほど発見され、その度に大きな歓声が上がっていました。

はばタンがやってきた！



兵庫県のマスコット「はばタン」が3月16日、丹波竜の里にやってきました。兵庫県民部の広報番組「はばタン便」

収録で丹波にやってきた「はばタン」は、番組タイトル「はばタン、恐竜化石を発掘！？」で5次発掘調査の終了した発掘現場や元氣村かみくげ、山南化石工房「ちーたんの館」などを訪ねて回りました。

TVでおなじみの広報専門員、米田裕美さんに連れられた「はばタン」は発掘現場を展望台から眺めながら発掘調査を振り返ったり、山南化石工房ではクリーニング作業を見学し、実物大模型を見上げて丹波竜の大きさに驚いたり、施設内各展示物に触れたりして楽しんでいました。丹波竜のマスコット「ちーたん」とも館内で抱き合って初対面を喜んでいました。

元氣村に戻った「はばタン」は新設の化石発掘体験棟では初めて手にするハンマーで小石を割って化石を探したり、恐竜焼きを味わっていました。詳しくは27日（日）昼と28日（月）夕の2回、サンTV放送の番組の中で紹介されます。

お知らせ

4月10日に予定されていた「川代さくらまつり」は本年は中止します。

- 4月の予定
- ◆ 4月9日 里づくり協議会 午後7時30分
 - ◆ 4月6、13日 老社会役員会 午前9時

新シリーズ紹介

今月から子育てにがんばる 若いお母さん、お父さんをシリーズで紹介していきます。

里の子育て奮闘記

その①

若林 哲史(のりふみ)さん
昌子さん ご夫妻
(上滝)



若林さんご夫妻には2女、2男の4人の子ともさんがおられ、5歳と3歳は女兒、2歳と8カ月のお子さんは男児で、今は両親と同居の8人家族で過ごされています。

神戸出身の哲史さんと上滝出身の昌子さんは2年前に、住んでいた姫路から3人の子ともさんを連れて昌子さんの実家、上滝に越してこられ、その後4人目の男児をもうけておられます。哲史さんは「4人目をつくる時に、ど

うしようかと若干は躊躇したが、両親との同居が答えを簡単に引き出してくれた」と笑いながら振り返っておられます。

ご夫妻は吹奏楽が縁で結ばれたこともあって、子どもさんの名前も音楽に係り名付けたそう、長女から、かなで、かのん、拓斗(たくと)、亜琉斗(あると)ちゃん。

また、4人はそれぞれ「4」のつく日に生まれたのも奇遇で、今は若林家の幸せの「4つ葉」ちゃんです。と誕生秘話を話していただきました。

哲史さんは現在大阪の会社に通勤され、昌子さんは子育てに奮闘中です。

平均2人に満たない出生率の中で4人の子ともさんを育てていく楽しい面と苦労する面を尋ねてみました。

「家族が多いことは賑やかで、家庭内が明るくていいです。また、4人の子どもの年齢が接近していることから姉弟の遊び方も一緒に、仲良く遊んでくれるのがいい」。さらに、「都会で自分たちだけで育てるには4人はきついかもしれないが、幸い両親と同居しているので、いざという時に子供の面倒を見てくれるので安心です。苦労する面は特に思い当たりません」と昌子さん。

現在、政府で検討されている「子育て支援策」についても聞いてみました。

「今の子ども手当はその都度方針が変わって先が読めない、当てにできない。今までの児童手当の方が政策としてはっきりしているので、こちらの方がいいかも」と話されていました。

(レポーター…SM)

恐竜親子の足跡アート
修復される

下滝駅前の恐竜親子の足跡をイメージしたペイントが平成20年に設置以来3年が経過し、所どころは落ちていたのを3月12日、里づくり活動のメンバーの手で修復され、1.8キロメートルの発電所までの道のりに再びアートが鮮やかに浮かび上がりました。JRを利用した来訪者へのユーモラスなおもてなしになると期待されます。また、元氣村かみくげ駐車場から発電所までの農道300メートルにも新たに足跡をつけて、「車を利用した発掘現場見学者にも足跡アートを楽しんでもらえれば」と作業に参加したメンバーは話していました。

ベンチ、テーブルを上久下に寄贈
山南ライオンズクラブと山南中学校

山南ライオンズクラブは3月19日、元氣村かみくげにベンチとテーブル2組を寄贈し、目録が土田芳章村長に手渡されました。ベンチ、テーブルセットは元氣村駐車場、東側広場に設置し、来訪者の休憩場所として活用されます。

また、22日には山南中学校の今年度卒業生6人の手づくりベンチ2脚が上久下自治協議会に寄贈され、制作にかかわった生徒たちのメッセージとともに柳川瀬義輝自治協議会長に手渡されました。元氣村の化石発掘体験施設横に設置しました。

